



在京古高同窓会
会報
第1号
〒150 東京都渋谷区
3-20-13 第2平野ビル 302号室
芙蓉通高仙内
☎ 406-1585

大集合でリフレッシュ

—在京古高同窓会総会 10・14—

在京古高同窓会の総会がさる十月十四日、千代田区平河町の都市センターホテルで開かれ、百二十七人の同窓生が出席し、同窓の親睦をさらに深めるために起案された新しい会則、活動方針を万場一致で承認、同窓会再生の第一歩を記しました。会長には伊藤宗一郎さん(昭16)、副会長には多藤省徳さん(昭9)、遠山仁二さん(昭25)が選任されました。



総会は午後六時高橋通さん(昭27)の司会で開会。多藤さんが新会則起案の経緯を説明した。この後懇親会に入り、司会は小嶋進さん(昭47)に交代。春田紘輔さん(昭27)の音頭による校歌斉唱、新任役員挨拶に続き、永年同窓会の面倒を見てこられた高橋陽一郎さん(昭28)の表彰が行われました。これだけの出席者は同窓会始まって以来のこと。古川市長の千坂侃雄さん(昭19)もはるばる駆けつけてくれました。会場はいつもの子を洗うような混雑ぶりでしたが、グラスを片手に思い出や近況に話が弾みまわりました。最後には全員が一般応援歌、囀南歌を斉唱、会場に「鳴瀬の川に月淡く」の歌声がこだましました。



会長 伊藤宗一郎

折に触れ、勇躍郷関を出でた頃の感懐が鮮かに蘇ってまいります。多くの方と同様、私にとってもその気持は職務精励の源であります。この会報が在京同窓の太い絆となつて、皆様心の糧となればこれに過ぎる喜びはありません。



多藤副会長



遠山副会長



半田総会議長

【事業計画】

- 一、総会を毎年十月に開催する。
- 二、会報を年二回発行する。
- 三、会員名簿を三年に一回を目標に作成し配布する。
- 四、会の組織の拡大と基盤の強化をはかる。

より感謝状並びに記念品を贈呈されました。

◎事務局長に青柳さん

従来から事務局を手伝ってこられた青柳勲さん(昭9)が新組織の事務局長に就任されました。間もなく七十二歳とのことですが頑張っていただくことになりました。

◎高橋(陽)さんに感謝状

永年にわたり在京同窓会の面倒をみてこられたグルルマルカンの高橋陽一郎さん(昭18)に感謝のしるしとしてこのたび会長



青柳事務局長

◎再出発の足どり

63・2・13 有志会合し同窓会の活性化について打合せ
63・3・15 伊藤会長大臣就任祝賀会開催
以後四月3回、五月2回、六月4回、七月3回、八月3回、九月4回と常任理事会、役員会並びに有志の会合を重ね、総会への提案事項その他の審議をしました。

会員の現況と「年会費納入状況」

63・10・14 総会において会則、役員並びに活動方針を決定、その後、懇親会を開催し今日に至っております。

会員数……………一、四二七名
(内訳) 古中卒 一八七名
古高卒一、二四〇名
年会費納収者数……………二九〇名
六三・十二・二十現在

会 則

第一章 総 則

第1条 本会は在京古高同窓会と称し、事務所を東京に置く。

第2条 本会は在京古中及び古高出身者を以て組織する。

第3条 本会は会員の交誼を厚くし、相互の修養を図り、母校

宮城県古川高等学校の事業に協賛することを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事を行う。

(1) 総会、役員会及び常任理事会

一、定期総会の開催：毎年秋期一回開催し、業務並びに会計の報告及び役員

の改選を行う。

二、臨時総会の開催：必要と認められた場合、役員会の決議によって開催する。

三、役員会及び常任理事会は、会長の招集により随時開催する。

(2) 事業

一、会員の親睦、修養に関する事。

二、会員の慶弔に関する事。

三、母校との連絡協力に関する事。

四、その他、本会の目的達成

在京古高同窓会役員名簿

会 長	S 16 伊藤 宗一郎	顧問	T 7 大場 軍勝	S 27 相沢 清
副 会 長	S 9 多藤 省徳	T 9 門間 冬見	T 13 長沼 富雄	S 28 山田 四郎
常任理事	S 25 遠山 仁一	T 14 北浦 太一	S 2 伊藤 金吾	S 29 佐藤 広
	S 8 大場 正治	S 4 佐藤 静雄	S 5 永沢 幸七	S 31 片平 司郎
	S 9 伊藤 守治	学校長	庄子典男	S 32 佐藤 公哉
	S 9 青柳 勲	監 事	S 19 青沼 康男	S 33 佐々木 光一路
	S 14 中沢 廣	幹 事	S 7 泉沢 四郎	S 34 浅野 直樹
	S 17 高橋 淳夫		S 7 伊藤 正志	S 35 佐々木 武磨
	S 18 佐藤 幸雄		S 8 及川 八郎	S 36 千葉 昇
	S 20 菅原 照男		S 9 三浦 亮二	S 37 相沢 輝義
	S 22 倉沢 健太郎		S 11 佐藤 巖	S 38 齊藤 秀樹
	S 22 半田 実		S 12 佐藤 恂一	S 39 岩淵 憲
	S 23 鈴木 大吉		S 13 大益 正俊	S 40 石堂 和也
	S 24 門脇 健		S 14 西塚 豊	S 41 小畑 剛
	S 24 菅泉 忍		S 18 加藤 茂	S 42 佐々木 正雄
	S 25 佐藤 正夫		S 19 今野 寅吉	S 44 高泉 喜昭
	S 26 三沢 吉満		S 20 横山 栄治	S 45 橋本 郷史
	S 27 春田 紘輔		S 22 竹中 潤郎	S 46 今野 正俊
	S 27 高橋 通		S 23 佐藤 浩朗	S 47 佐々木 正敏
	S 28 高橋 陽一郎		S 25 加藤 忠	S 47 鈴木 雄二
	S 29 早坂 清吉		S 26 遠藤 悳	S 48 佐々木 俊弘
	S 30 三浦 哲夫			S 49 佐藤 昭
	S 31 尾崎 章			S 50 菊地 義次
	S 34 宮野 眞司			S 51 村上 圭一
	S 37 千坂 孝夫			S 52 赤間 毅
	S 42 高橋 進			S 52 佐々木 敬文
	S 44 伊澤 正雄			S 53 姉齒 庸平
	S 47 小嶋 進			S 54 渋谷 紳一郎
				S 55 八島 英雄
				S 56 加藤 精一
				S 45 畠山 英洋
				S 51 板垣 敬二

成のため必要と認められた事項。

第二章 会 員

第5条 本会の会員は次の3種とする。

(1) 通常会員：母校出身者(卒業生並びに在籍したことのあるもの)。

(2) 特別会員：母校旧職員。

(3) 名誉会員：役員会において推薦し、総会の承認を得

る。役員は任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

会長1名。副会長若干名。常任理事若干名。幹事は卒業年度別に1〜2名。事務局長1名。監事2名。

第7条 会長、副会長は総会において選出する。常任理事、

事務局長は会長がこれを委嘱する。幹事は常任理事会に諮り、会長がこれを委嘱する。

第8条 会長は会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代理する。常任理事は本会の運営及び庶務会計を掌る。事務局長は常任理事を兼務する。幹事は会員相互の連絡提携をはかり、

監事は会計を監査する。

第9条 本会は顧問を置くことが出来る。置く場合は、総会に諮り、会長がこれを委嘱する。顧問は本会の諮問に応じ

る。

第10条 本会は名誉会長を置くことができる。置く場合は総会に諮り、推戴する。

第4章 経 費

第11条 本会の会費は通常会費、寄付金及びその他の収入を以てこれに充てる。通常会費は1ヶ年一〇〇〇円とし、通常会員はこれを納入するものとする。

第12条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり9月末日終わる。

第13条 本会には次の名簿を備えるものとする。①会員名簿②出納簿③記録簿(議事録含む)

備 考

(1)在京とは①首都圏勤務者。②首都圏勤務者

(2)離京した時は事務局へそのことにより離会する。

祝創刊

株式会社
東急レクリエーション
東京都渋谷区桜丘町2-9
電話 462-2131(代)

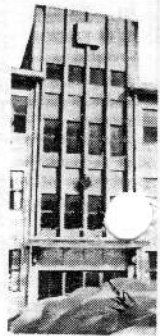
祝創刊

株式会社 **宮地鉄工所**
東京都中央区日本橋小伝馬町15-18
日本橋SKビル
電話 639-2111(代)

〔古高今昔小史〕①

古高百周年に向って

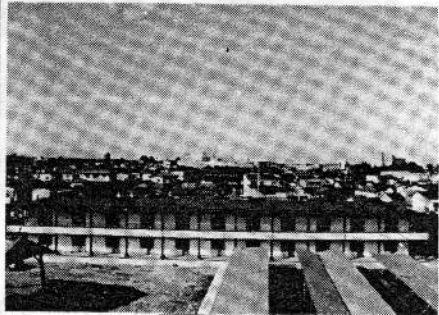
学校長 庄子典男



昨年秋には、宮城県古川高等学校創立九十周年並びにクラブハウス落成記念式典を挙げてきましたことは、これひとえに古高同窓会の皆さまの暖かい御支援があつたればこそと改めて感謝申し上げる次第です。この九十年の間に仙北の名門校として、また大崎地方教育文化の中心として、地域の開発と発展に天いに貢献してきた功績は今改めて申し述べるまでもありません。

現在生徒定員一千八十名、生徒出身中学校数三十を数えています。卒業生の進路も大学進学に就職によりき成果をあげてお

昭和63年度大学合格者のうち国公立大学は約百二十名、私立大学約二百九十名、就職試験合格者のうち公務員関係者も十数名を数える好成绩を収めております。



クラブハウス

施設設備の面について申し上げますと、関係各位の御支援により環境は日を追って整備されて来ましたが、しかしながら校舎も次第に老朽化し一部危険を伴う状態を呈しているところから、近い将来において大規模改修工事が県当局によって着手されることを望むものであります。幸い古高創立百周年記念事業協賛会費につきましては、今年のPTA総会で快く再確認され、百周年に向けて第一歩が踏み出されました。今こそ九十年の礎の上に立って堅実なる前進を誓うときであります。先輩諸兄を乗り越え、持てる力を十分に発揮して、未知へのチャレンジを期して行くこそ、古高生の使命と考えるものであります。

私もひとこと

佐藤 正夫

昭和19年から戦中戦後の在職6年間は天と地と逆転した教育行政時代であり、教師を含め全員右往左往するだけであつた。何かに夢中になりたくて始めた各運動部の活躍により創立以来最高に古高の名は東北六県に鳴り響いた。そして上京以来在京古高二期会として池袋で本年56回目の会合を開いた。酔えば肩を組み校歌、応援歌などを歌い、固く手を握りあつて別れる。毎年のことながら思えば夢中でここまでやってきた。理屈抜きに唯それだけが絆は固い。

昭和25年卒(古川) 佐藤 彰

一年生坊主頭。漲る体力をもて余し、出来たばかりのプールで日が暮れるまで泳いだ。

二年生長髪可。何故か応援団に入り、白鼻緒の下駄を履き、インターハイでは一番速くまで走って紫の応援団旗を振つた。

三年生演劇部。女子校との合同発表でやつと色気が出てきた。そして、たった三年でもう卒業。その後、母校を訪れる機会も

な。まに帰省の途中JRにて母校の傍を過ぎるとき、車窓

から見る母校の佇まいに一瞬、過ぎし日を思い浮かべるが、景色がかわればすぐにまたわれにかえり、また今の生活に戻る。

古高三年間の成果として明言出来るもの、それは質実剛健の気風と共に青春を過ごした仲間との連帯感。昭和44年卒(岩出山)



大場 軍勝

卒後七十年本年米寿を迎う。

古中も古高となつた。校歌に歌われる山川草木耕土皆健児を励ましその前途を祝福してくれたが、自転車を持てる家庭の生徒各学年で数人の外は全部徒歩通学。靴は体操のとき履くが、殆んどが布の緒の足駄。教科書を包んだ風呂敷と弁当を振り分けに頭にブラ下げて岩出山・田尻からも通つた。勉強は歩き乍ら大部分で自動車もないから大手を振つて本と首っ引きだった。このバンカラ連から大臣も博士も高位高官も生まれた。懐しい昔の物語だ。大正七年卒(東大崎)

祝創刊

株式会社 古久伸

代表取締役 千葉勝男(S32)
東京都新宿区高田馬場3-12-27
第一古久伸ビル
電話 360-3811(代)

祝創刊

徳陽相互銀行

本店—仙台市国分町1-5-1
電話 022-222-0171(代)
東京支店—東京都台東区上野1-18-8
電話834-1001(代)

プロフィール



伊藤宗一郎さんと同期の人たち(昭和16年卒)

伊藤宗一郎さんのことを述べ
るには、同じ中新田出身の同級
生、今野榮喜さんに登場しても
らうのが一番よい。お二人がそ
うであるように、大正の末に生
を受けた世代にとって、「一期一
会」という言葉ほど特別の感情
を懐く世代は他におそらくある
まい。時代はそれほど当時の人
々にそれぞれの立場において、
「出会いと別れ」を繰り返させ
た。それ故にこそ人々の間に友

情の絆を強めお互いが忘れ得ぬ
思い出を分かち合った。戦死し
た友もまだ息遣いが聞こえるほ
どに、いまだに身近に感じられ
る世代であった。
伊藤さんは初当選以来25年を
こす議員生活、その間、二度の
大臣経験をもつべテラン政治家
という立場でさえ特に友の絆を
強く感ずるといふ。

ところで、よきライバルとし
ての伊藤さんと今野さんだが、
旧制中学時代はだれもが今野さ
んは将来、政治家になるものと
思っていた。それが今野さんは
懶蝶理の社長となり、一方、伊
藤さんは新聞記者から代議士へ
と進んだ。運命の織りなす綾と
いうのだろうか。
伊藤さんは言う。「死者と共
に生きる我々の世代、非力では

ふるさとの味覚

ずんだもち

美味ではあるが薄命のためマ
イナーな食べ物。旬は夏。命は
半日。季節がら油断するとすぐ
に餓えてしまう。その由来は、
糰(じんだ)、豆打(ずだ)の訛
ったものと諸説ある。とにかく
盛夏の折りの青々とした大豆が
主役。近頃首都圏でも時折お目
見えするが、腐敗防止のため甘
すぎ、その上餅米がまずい。やは
り名物は、故郷で食べるに限る
が、地元郵便局企画の冷凍パッ
クはお奨め品。通年扱い可。
一パック11、五〇〇円
宮城荒井郵便局(三三六六五四三)

会員の消息・近況

◎八島幸彦さん(昭27)は本年八
月三十一日付をもって警察大学
校長を退官され国会図書館調査
委員に就任されました。
◎大内健さん(昭27)は本年七月
群馬県の大生相互銀行専務取締
役に就任されました。

◎古川商工会議所と在京大崎出 身経済人との懇談会が十二月五 日夜、丸ノ内精養軒にて行われ ました。当日は伊藤会長ほか 在京古高同窓会から25名が出席、 会議所会頭も同窓生とあつてま るで臨時同窓会の感もあり、古 川市の発展策につ、

忘憚のな

計報

意見の交換が行われました。

- 角田典昭さん(昭和20年卒) 63・1・20歿 59歳
- 西沢揚太郎さん(大正13年卒) 63・8・11歿 81歳
- 熊谷慶蔵さん(昭和16年卒) 63・11・14歿 64歳

事務局だより

お知らせ・お願い

- ◎待望の会報創刊号をお手許に
発送するに際し、宛名をコンピ
ュータに入力(昭和44年卒の伊
澤さんのご好意で格安に)して
ありますので住所変更はお早め
にお願いします。
- ◎年会費振替用紙を同封しまし
た。未納の方はお早めにお願
いします。次回会報は6月頃でそ
の発行費用といたします。
- ◎目下名簿作成準備中です。同
封の名簿作成アンケートにご記
入ご返送下さい。
- ◆会の運営並びに会報に関する
ご意見等をお寄せ下さい。
- ◆次号会報に掲載する原稿を募
集しております。
- ◆次号会報に広告をご希望の方
は事務局 青柳までご連絡を!!
- ◆広告掲載に当り左記の方々に
格別のご協力をいただきました。
- 鈴木大吉(昭23) ●菅泉忍(昭
24) ●遠山仁一(昭25) ●佐藤
進(昭26) ●千葉勝男(昭32)
- 錦戸正継(昭37)(敬称略)
- ◆消息欄へ会員並びにクラス会
等の情報をお寄せ下さい。

祝創刊

東邦生命保険相互会社

東京都渋谷区渋谷2-15-1

電話 499-1111(代)

祝創刊

日本団体生命保険株式会社

東京都渋谷区東1-2-19

電話 407-6211(代)